

シグマ研究委員会 J E N D L - 1 積分評価
W. G. 1977年度第2回会合議事録

日 時 1977年6月13日(月) 13:30 ~ 17:00
場 所 原研東京本部 第11会議室
出席者 菊池, 長谷川(原研), 亀井(NAIG), 山本(日立), 宝珠山,
佐々木(MAPI), 松延(住友), 瑞慶覧(PNC, 大竹代理),
松井(日本情報サービス, オブザーバー)

議 題

1. 自己遮蔽因子作成

- TIMSのランは, 核設計研高野氏が7月から行なう予定である。原子核データ室のマンパワーを利用すれば, さらに早く行なえるので, この点を調整する。
- 7月末までに完成すれば良い。

2. 標準炉定数の概念とFormat

- 概念についてuserの希望をとりまとめた結果
 - a) 70群を標準とするが25群も用意する
 - b) ^{238}U とのmutual shieldingについては $R=0$ の場合も用意する。
 - c) $\sigma_0=0$ も用意する。
 - d) elastic removalの自己遮蔽は与えられない場合は0でなくelasticのものを与えておくべきである。
- Formatとしては
 - a) 全核種をbinary形式でmulti-file化しておき, userはこれをBCD化してコピーする。
 - b) 原研で使用中のEXPANDAのlibraryも外部にコピーさせる。

3. J E N D L - 1 の詳細解析への適用

- 前回の宿題の結果, NAIGとMAPIは受託するとの返答

。対象としては

a) 簡単な計算では ambiguity を小さくできないような item

b) 方法の妥当性が確立されているもの

c) 昨年度のベンチマーク体系から大きく離れた体系

等が提案された。具体的には MZB, ZPPR 等について C/R worth, reaction rate distribution, central void が考えられる。

。PNC が 7 月末までに具体案を決めて来る事になる。

4. 今年度の W. G. 作業

。当面は, T I M S による f-table を用いて, benchmark test をやり直し, JAERI-report にまとめる。

次回会合：1977年7月26日（火） 原研東京本部